

## 「人の中から出て来るもの」

マルコの福音書 7:14~23

### はじめに

今日の箇所はイエシュアが群衆に対し、また弟子たちに対して「汚れ（けがれ）」というものについて説かれた記述です。私たちは普通この「汚れ（穢れ）、汚れる」という言葉に対して良い印象を持ちません。「あなたは汚れています。」こう言われて喜ぶ人はまずいないでしょう。それはこの言葉の持つ概念、イメージが、私たちにとって良いもの、有益なもの、心地良いものではないためです。つまり「よごれ、汚い、不潔、臭い、気持ち悪い、忌み嫌われる」などの言葉に置き換えて捉えてしまう言葉、それがこの「汚れ」だからです。もちろんイエシュアはそのような意味でこの「汚れ」について述べられ、人ではなく神が忌み嫌われる霊的な汚れ、つまり神の教え、戒めに背いて、神がしてはならないとお命じになったことをする、罪を犯すことについて語られたとも考えられます。しかしそれだけではないように思われます。なぜならこの「汚れ」について語られる前に、イエシュアはこのように言われたからです。

【新改訳 2017】 マルコの福音書

7:14 イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた。「みな、わたしの言うことを聞いて、悟りなさい。」

イエシュアは、わざわざ「群衆を呼び寄せて」、そして「みな、わたしの言うことを聞いて、悟りなさい。」と言われました。日本語訳のこの文章だけでもこれからイエシュアが語られる内容が、簡単に理解できるものではないことがわかります。そしてこの「聞いて」、「聞く」という意味のヘブル語はシャーマ(שמע)と言いますが、この言葉は本来、以下の出来事で使われた言葉でした。

【新改訳 2017】 創世記

3:8 そよ風の吹くころ、彼らは、神である【主】が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。

これはエデンの園で、最初の人アダムとその妻エバが神の命令に背き、罪を犯した後の出来事です。「彼らは、神である【主】が園を歩き回られる音を聞いた。」ここに聖書で最初のシャーマがあり、この言葉は本来、神の音、すなわち声、言葉を「聞く」ということであると考えられます。そして罪を犯したアダムとエバは「御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。」とあります。一見彼らのとったこの行動は良くないもののように感じられますが、実は大正解でした。なぜなら罪人が神の御顔を見ることは即、死を意味するからです。

【新改訳 2017】 出エジプト記

33:20 また言われた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

これは神がモーセに語られた御言葉です。神に選ばれ、地上の誰にもまさって柔和、謙遜であった（民数記 12:3）あの預言者モーセでさえ神の御顔を見ることはできなかつたのです。ちなみにモーセの場合は木の間ではなく岩の間に隠されました（出エジプト記 33:22）。つまり「聞く」シャーマとは本来、**神の御声、御言葉を聞き、そして死を免れる、つまり救われること**を意味する言葉であると考えられます。

またイエシュアは「**悟りなさい**」とも言われました。「悟る」という意味のヘブル語ビーン(יָבִין)は以下の出来事とその最初の言及です。

#### 【新改訳 2017】創世記

41:32 夢が二度ファラオに繰り返されたのは、このことが神によって定められ、神が速やかにこれをなされるからです。

41:33 ですから、今、ファラオは、**さとく**で知恵のある人を見つけ、その者をエジプトの地の上に置かれますように。

これはアブラハムの子イサクの子ヤコブの子ヨセフが、エジプトのファラオが見た夢の意味を解き明かしたという場面です。その夢とは、これから神がなさろうとしておられる出来事についてのものでした。ファラオは夢を解き明かしたヨセフを「**さとく**で知恵のある人」として指導者に任じました。ここに聖書で最初のビーンがあります。ですからビーンとは本来、神がこれからなさろうとしておられること、つまり**神のご計画を理解すること**を意味する言葉であると考えられます。ですからイエシュアは「**群衆を呼び寄せて…みな、わたしの言うことを聞いて、悟りなさい。**」と言われましたが、そこには、これからご自分が語る内容が、神がお選びになった者たちが集められ、どのようにして救われるのかという神のご計画についてのものであることが指し示されていると考えられます。それではここから語られる「汚れ」についてのイエシュアの御言葉を、神がこれから何をなさそうとしておられるのかという神のご計画の視点から考えてみたいと思います。

## 1. 汚す

#### 【新改訳 2017】マルコの福音書

7:15 外から入って、人を汚すことのできるものは何ともありません。人の中から出て来るものが、人を汚すのです。」

7:16 【本節欠如】（「聞く耳があるなら、聞きなさい。」）

私たちの持っている新約聖書ではこの「7:16 **聞く耳があるなら、聞きなさい。**」は、多くの場合省かれているのですが、一部の訳本には、この一文が追記されているそうなので、今述べた「聞く」ということの本来の意味を強調したい私としては記しておきたいと思います。それだけここに記されている「汚れ」についてのイエシュアの御言葉は、よく注意して、いや聖霊の助けを受けて、人の主観ではなく神の視点で捉え、「**聞く耳**」をもって聞かなければならないものだと考えます。ですからどうか今この「汚れ」という言葉に対する私たちの概念、一般的なイメージを一旦白紙に、ゼロにさせていただきたいのです。その上でここで語られているメッセージを受け止めていただきたいと思います。

まずここで使われている「汚す」という意味のヘブル語はターメー(תָּמַא)と言い、その最初の言及は創世記 34:5 の出来事です。

【新改訳 2017】創世記

34:1 レアがヤコブに産んだ娘ディナは、その土地の娘たちを訪ねようと出かけて行った。

34:2 すると、その土地の族長であるヒビ人ハモルの子シェケムが彼女を見て、これを捕らえ、これと寝て辱めた。

34:3 彼はヤコブの娘ディナに心を奪われ、この若い娘を愛し、彼女に優しく語りかけた。

34:4 シェケムは父のハモルに言った。「この娘を私の妻にしてください。」

34:5 ヤコブは、シェケムが自分の娘ディナを汚したことを聞いた。息子たちは、そのとき、家畜を連れて野にいた。それでヤコブは、彼らが帰って来るまで黙っていた。

これはアブラハムの子イサクの子ヤコブ(すなわちイスラエル)の娘ディナについての出来事です。ヒビ人つまり異邦人であるハモルの子シェケムがこのディナを「汚した」辱めた、強姦したという出来事が、聖書で最初のターメーが使われた箇所です。ですからターメーとは本来、洗えばきれいになるような汚れを指すのではなく、民族的な汚れ、イスラエルの血筋に、異邦人の血が混ざる、雑婚といわれるような状態を指すと言えます。ヒビ人シェケムがしたことは、ヤコブの家にとっては悲劇であり、私たち一般的な倫理観で見ても当然犯罪行為ですが、彼はその直後にこの「ヤコブの娘ディナに心を奪われ」たとあり、ここには本来「妻と結ばれる」という意味のダーヴァク(דָּוַק)が使われています。そして実際にシェケムは正式に結婚を申し込み、ついには自分も自分の一族ごと彼女と同じイスラエル人になろうとし、その証しとなる割礼まで受けています。つまりヒビ人シェケムは、ディナだけでなくイスラエルの家全体を愛し、結びつこうとしたのです。ですから、見方を変えればこの出来事は、汚した、汚されたというようなものではなく、**イスラエルの民に異邦人が結びつく、一つの民になろうとする**ということであり、神のご計画にも非常に則した内容であると言えるのです。なぜなら神のご計画の完成である「神の国」とは、イエシュアによってイスラエルと異邦人の教会が一つになって治める国であり、イスラエルによって、イスラエルを通して、繋がることによって救われ、生かされ、祝福される世界だからです。ですから「汚す」と訳されたターメーですが、なんと本来は「神の国」の内実を表すような言葉であると言えるのです。つまり「神の国」が完成するためには、人は必ず「汚れ」なければならないということなのです。もう一度述べておきますが、この「汚れ」という言葉を私たちの今持っている概念で捉えないでください。「汚れ」ターメーという言葉が聖書で最初に使われた出来事、そこに表された神のご計画、すなわち**イスラエルに結びつけられる異邦人**という概念をもって捉えてください。

このような概念、イメージを持って「汚れ」という言葉を捉え、イエシュアの言われた「**外から入って、人を汚すことのできるものは何ともありません。人の中から出て来るものが、人を汚すのです。**」という御言葉について考えてみましょう。

「**人を汚す**」すなわちイスラエルに異邦人が結びつき「神の国」を建て上げるのは、人の「**外から**」ではなく「**人の中から出て来るもの**」によって成し遂げられるということであると考えられ、結論からしてそれは**人としてお生まれになった神の御子、メシアであるイエシュア**を指し示していると考えられます。

「人の中」を意味するヘブル語のケレヴ(קֶרֶב)は本来、「心の中」と訳され、以下の出来事で使われました。

【新改訳 2017】創世記

18:12 サラは心の中で笑って、こう言った。「年老いてしまったこの私に、何の楽しみがあるでしょう。それに主人も年寄りで。」

18:13 【主】はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑って、『私は本当に子を産めるだろうか。こんなに年をとっているのに』と言うのか。」

18:14 【主】にとって不可能なことがあるだろうか。わたしは来年の今ごろ、定めた時に、あなたのごころに戻って来る。そのとき、サラには男の子が生まれている。」

18:15 サラは打ち消して言った。「私は笑っていません。」恐ろしかったのである。しかし、主は言われた。「いや、確かにあなたは笑った。」

これは神がイスラエルの父祖アブラハムと、その妻サラの前に現れ、話された場面です。ここで神である主はアブラハムの妻サラが子を産むことを告げられますが、この時すでに老人になっていたサラはそれを聞いて「心の中で笑っ」たとあり、ここに聖書で最初のケレヴがあります。このようにケレヴには本来、「サラの中の笑い」、というような意味合いがあり、そしてサラは男の子を産み、その名は「笑う」という意味のイサクと名づけられます。この事実からイエシュアが言われた「人の中から出て来るもの」とは、サラの中から、すなわちアブラハムの子、子孫、イスラエルの民、ユダヤ人の中からお生まれになったイエシュアご自身を指し示しておられると考えられます。そのイエシュアによってイスラエルと異邦人が結びつけられ、「神の国」は建てられる、完成することのたとえがこの「人の中から出て来るものが、人を汚すのです。」であると考えられます。申し遅れましたがイエシュアの語られたこの御言葉はたとえ話です。次にそれがはっきりと記されています。

## 2. たとえ

【新改訳 2017】マルコの福音書

7:17 イエスが群衆を離れて家に入られると、弟子たちは、このたとえについて尋ねた。

イエシュアのたとえはすべて「神の国」の奥義すなわち神のご計画を指し示したものです。

【新改訳 2017】マルコの福音書

4:11 そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の奥義が与えられていますが、外の人たちには、すべてがたとえで語られるのです。」

ですからここでイエシュアが語られている「汚れ」についてのたとえもまた同様に「神の国の奥義」、神の国がどのようにしてなるか、またどのようなものであるかというたとえ「型」として捉える方が、実はより自然な解釈と言えるのです。しかし多くの場合、私たちはこの「汚れ」を一般的な概念、悪いイメージと混同して捉えるため、このような事実を見出せなくなっています。

【新改訳 2017】 マルコの福音書

7:18 イエスは彼らに言われた。「あなたがたまで、そんなにも物分かりが悪いのですか。分からないのですか。外から人に入って来るどんなものも、人を汚すことはできません。

イエシュア以外に、イスラエルと異邦人を結びつけ、「神の国」を完成させることのできる御方はいません。それがこの「外から人に入って来るどんなものも、人を汚すことはできません。」というたとえの持つ意味であると考えます。弟子たちもこの意味を理解することはできませんでした。述べたようにイエシュアに選ばれた弟子たちには確かに「神の国の奥義が与えられています」、しかしそれを理解することができるかどうかはまた別問題です。実際に私たちも含めイエシュアを信じる多くの者がこの「汚れ」を一般的な意味、イメージと混同して捉えてしまうため、このたとえに表された神のご計画を理解できていません。

### 3. こうして

【新改訳 2017】 マルコの福音書

7:19 それは人の心には入らず、腹に入り排泄されます。」こうしてイエスは、すべての食物をきよいとされた。

ではこのイエシュアは「すべての食物をきよいとされた。」という記述には、どのような神の国の奥義、神のご計画が表されているのでしょうか。ここに使われている「食べる」という意味のアーハル(אָחַל)は本来、神の戒め、命令を指し示す言葉でした。

【新改訳 2017】 創世記

2:16 神である【主】は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

2:17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

これは「神の国」の「型」であるエデンの園において、神が人に「命じられた」戒め、教え、法です。ですからアーハルには本来、神の命令に聞き従うという意味合いがあると考えられます。

また「きよいとされた」という箇所に使われているのはナーカー(נָקַח)で、この言葉は本来、「責任を果たす、任務を終える」という意味で使われました。

【新改訳 2017】 創世記

24:7 天の神、【主】は、私の父の家、私の親族の地から私を連れ出し、私に約束して、『あなたの子孫にこの地を与える』と誓われた。その方が、あなたの前に御使いを遣わされるのだ。あなたは、そこから私の息子に妻を迎えなさい。

24:8 もし、その娘があなたについて来ようとしなければ、あなたはこの、私との誓いから解かれる。

これはアブラハムが息子イサクの妻を探すようにと自分のしもべを遣わす場面です。ここで「誓いから解かれる」という箇所に聖書で最初のナーカーがあり、その誓いとはイサクのためにその妻となる人を迎え

ること、結び合わせることでした。このような事実から、「**こうしてイエスは、すべての食物をきよいとされた。**」という記述には、イエシュアが神のご命令、すなわち神のご計画に従ってイスラエルに異邦人を結びつけて「神の国」を完成させ、「**こうして**」イエシュアはその任務、責任を果たされる、ということが表されていると考えられます。このイエシュアの実すべき任務、責任の詳細がさらにイエシュアご自身によって語られます。

#### 4. これらの悪

【新改訳 2017】マルコの福音書

7:20 イエスはまた言われた。「人から出て来るもの、それが人を汚すのです。

7:21 内側から、すなわち人の心の中から、悪い考えが出て来ます。淫らな行い、盗み、殺人、

7:22 姦淫、貪欲、悪行、欺き、好色、ねたみ、ののしり、高慢、愚かさで、

7:23 これらの悪は、みな内側から出て来て、人を汚すのです。」

たとえイスラエルと異邦人を結びつけたとしても、罪あるものは「神の国」に入ることはできません。ですからイエシュアの役目は「**これらの悪**」罪を人の中から「**内側から出て来て**」つまり、外に出す、取り除くことでもあるのです。イエシュアは「**これらの悪**」と同じく「**人から出て来るもの**」となられ、すべての罪をその身に引き受けられたのです。イエシュアの十字架の死、それがこのたとえの指し示す事実であると考えられます。これによって人の罪は取り除かれ、「汚す」という言葉に表された、イスラエルとそれに結びつけられる異邦人による「神の国」が建て上げられるのです。

イエシュアの語られた「汚れ」という言葉の意味が、一般的なものと混同されることによって、これらの記述、イエシュアの御言葉は、私たちがいかに悪に染まっており、罪人であるかということを思い知らせ、責め立てる、落ち込ませるようなものとなってしまいました。しかしもしこの「汚れ」が「神の国」を指し示す神のご計画を表す御言葉であると捉えるならば、今日の内容は私たちにとって喜びの知らせ、「福音」となります。神は、イエシュアは、罪を犯した人を責められる御方ではありません。その罪を取り除き、人をお救いになる御方なのです。思い違いをしてはいけません。良い業を行い、罪を犯さない人が救われるわけではありません。イエシュアによって、「**これらの悪**」をすべてその身に背負われたイエシュアの十字架の、その贖いの死によって罪を取り除かれたことで人は救われるのです。

このように、今日の箇所に記載された「汚れ」についてのイエシュアのこれらのたとえは、私たちがいかに罪人であるのか、そしてどのようにして罪を犯すのかという罪の仕組みや性質を説いたものではありません。このたとえは、「**人の中から出て来るもの**」である神の御子メシアであるイエシュアが、人として、アブラハムの子孫、イスラエルの民、ユダヤ人としてお生まれになり、同じく「**人の中から出て来るもの**」である人のすべての罪を背負われ、十字架による贖いの死によってその罪を「**人の中から**」取り出す、取り除くということ、そしてイスラエルに異邦人を結びつける、すなわちイスラエルによって地上のすべての部族、民族が神の祝福を受ける世界すなわち「神の国」を建て上げようとしておられることが表されたものであると考えられます。私たちは罪や悪に目を留めるのではなく、それらを取り除く御方イエシュアに目を留め、イエシュアが何をなされ、そして何をなさそうとしておられるのか、すなわち「神の国」を建てるという神のご計画に目を留めて、聖書の中にそれを求めてまいりましょう。御霊の助けとともに。